

## 第2回送配電網投資・運用効率化委員会議事要旨

1. 日 時：2023年11月15日（水）13：00～14：40
2. 委 員：一般送配電事業者（10社）の社長、送配電網協議会事務局長、  
外部より招聘した学識経験者（2名）、弁護士、会計士、消費者（各1名）

### 3. 議 題：

- （1）調整力の広域化・費用適正化に関する取組みについて
- （2）一般送配電事業者における設備仕様統一の取組みについて

### 4. 議事概要：

#### （1）調整力の広域化・費用適正化に関する取組みについて

##### ●有識者委員コメント

- ・再エネ予測精度について、使う側からの性能規定のようなものを技術開発側にフィードバックされているのか。
- ・予測精度の改善においては、これまでとは別のアプローチを取らないと、なかなか劇的な変化は起きないと思う。技術開発側は、予測がどのような使われ方をするのかについてかなり興味があると思うので、そういったところも技術開発側に伝えていただいて、使いやすい予測になればと思う。

##### ●一般送配電事業者委員コメント

- ・再エネ予測精度の性能規定について、どこまでの精度であれば良いかという観点は難しいところだが、実際にはエリアや地域単位である程度合算した時に、それぞれの誤差はあったとしても、全体としてある程度100%に近ければ、使っていける精度と言えると思う。我々がどういうアプローチで予測を使っているのかということとはとても大事な視点だと思う。

##### ●有識者委員コメント

- ・需給調整市場の取引会員数が増えることは良いが、実際に取引をしている事業者があまり増えないことは問題。各事業者の技術的な力量も要因かもしれないので、公平性も保ちながら、事業者の技術力の底上げをしていくための情報発信や支援についても検討いただければと思う。
- ・制度は緻密になっているが、そのトレードオフとして非常に複雑になっている。公共性が高い話なので、一般の人にいかに分かりやすく広報していくかが重要であり、公平性を見ながらしっかり検討した上でこの結論になっているというプロセスに関しても、広報いただけると非常に良いのではないかと。

##### ●有識者委員コメント

- ・余力活用契約において、義務を強めすぎると入ってこないし、努力義務的にすると実効性が弱まることから、余力を最大限活用するには余力活用契約の位置付けや役割をどうしたら良いのかというところは、悩ましい論点かと思う。
- ・余力活用契約の運用の現状と課題について、何かあればお伺いしたい。

●一般送配電事業者コメント

- ・2024年度以降は容量市場で約定した電源等において調整機能を持つものは余力活用契約を結ぶこととなっており、該当する電源等は余力活用契約を締結することになる。
- ・基本的には安定電源である火力や揚水等のゲートクローズ以降の余力を最大限活用してメリットオーダーでの運用を目指す。蓄電池については、事業者側の制約を全て把握したうえで系統運用者側から充電等の指令を出すとした場合に、現状では、小さい蓄電池も含めて網羅的に対応することができないといった課題もあり、今後検討していきたい。

●有識者委員コメント

- ・周波数といった電力品質についても費用がかかるということが理解できたが、この部分を消費者に伝えていくより良い方法を考える必要がある。
- ・取引会員数が増加しているものの実際の参加数は伸びてこないという課題について、狭い意味での関係者の努力だけでは解決できないのであれば、マスコミ等にも情報共有しながら、外に伝えていく方法を模索していくことが必要だと思う。
- ・市場参加者が増えないのはなぜかという点と併せて、市場参加者が伸びたら本当に課題が解決するのかという点も重要だと思う。

●一般送配電事業者委員コメント

- ・消費者の目線を見た時に何を説明していく必要があるかということは、とても大事な視点だと思う。
- ・需給調整市場について一般送配電事業者は調整力費用をコスト最小にしていける必要がある。リーズナブルに調達できるようにと考える一方で、調整力提供者はメリットを考えて応札するので、ここにややトレードオフの問題がある。少なくとも今のままではプレイヤーが少なすぎるので、参加者の拡大が必要と考えている。

●一般送配電事業者コメント

- ・今後はプレイヤーを増やしていこうとすると、小さい蓄電池や需要をシフトするDR活用を増やす必要がある。市場に参入するにあたって、細かい電源等をアグリゲートすることが難しいところはあるかもしれないが、そういった事業者の参入が進めば、競争が促進されて価格も下がり、柔軟に調整できる余地も生まれると思うので、市場参加者が増えることでプラスになる面はかなりあると思っている。

●有識者委員コメント

- ・システムや市場が複雑になる中で、たくさんの提案をいただいていることがよく分かった。
- ・市場参加者が増えていくと対応はより複雑になり、大変になってくると思うが、市場参加者の増加に関する見通しについてお聞かせいただきたい。

●一般送配電事業者委員コメント

- ・足元では市場参加者数に関する見通しは持っていない。現状はマーケットとして十分に機能していない部分があり、その理由が、参加者が少ないからなのか、商品の特殊性なのかというところは議論がある。

●一般送配電事業者委員コメント

- ・発電機だけでなく、蓄電池やDRも需給調整の分野を支える可能性があるのではないかと検討がされており、必要な要件について、まだ議論していかなければなら

ない要素が多くある。そのため、リソースの種類を増やすなどしながら参入者を増やすためには、まずは、関係者の方々と議論をして、参入要件などの条件を詰めていくことが大切と思っている。

●一般送配電事業者委員コメント

- ・今後のネットワークの課題としては、調整力の広域化と分散化という両方のキーワードがあり、カーボンニュートラルや託送コスト低減のためには、ローカルエリアでの地産地消という考え方も一つの大事な要素になる。
- ・カーボンニュートラルを実現しようとする中で託送コスト全体を最適化するために、ローカルエリアでバランスすることを考えると、広域化して調整力コストを下げるという考え方は要素の一つでしかなく、複数の要素での検討が必要になると考える。

●有識者委員コメント

- ・取引会員の増加について、新しい技術を持った事業者に参加してもらえそうな仕組みや働きかけが必要だと考えている。意見交換会では、取引会員に限らず関心を持っている事業者から意見を聞くことも一案と考える。
- ・新規事業者が取引会員となり、入札参加する場合には、取引開始前に、技術力や十分なシステム投資が可能か、財務基盤、資本力といった点を調査・確認するプロセスはあるのか。
- ・市場の変容や上限価格の設定などもある中、様々な取り組みがどのような効果を上げているのか、一定のタイミングで評価いただいた方が良いと思う。評価軸についても、調整力確保割合や費用など目に見えやすいものもあるが、多様な調整力の開発や一般送配電事業者のシステム投資・人件費等の調達費用に含まれないコストなども踏まえて、多面的な評価を行い、アクションの見直しをした方が良い。

●一般送配電事業者コメント

- ・意見交換会には取引会員以外も参加いただいております、今年7月の説明会では、約100社の事業者に参加いただいております。
- ・市場に参加するうえでは、調整力提供側のシステム構築が必要であり、また、取引会員として純資産の要件も設定しており、事前に確認をしている。

●一般送配電事業者委員コメント

- ・調整力や需給調整市場は、複雑で幅広く、これからの送配電網の在り方にも関連する要素があると考えている。一般送配電事業者としては、十分な生産性向上やコストダウンに取り組んでいかなければならないと認識しているので、今後も引き続き、ご意見やアドバイスをお願いしたい。

**(2) 一般送配電事業者における設備仕様統一の取組みについて**

- ・ご意見なし

以 上